

機関リポジトリ事例報告： 千葉大学附属図書館

尾城 孝一

ojiro@ll.chiba-u.ac.jp

経緯(1)

■ 平成14年度

- 5月 「第1回学術情報の発信に向けた図書館機能改善連絡会」(研究振興局情報課)
- 6月 館内ワーキンググループの設置(「[千葉大学学術情報リポジトリ\(仮称\)計画](#)」開始)
- 8月 プロトタイプの開発開始
- 10月 学内教官向けアンケート実施
- 1月 『SPARC学術機関リポジトリチェックリストおよびリソースガイド』翻訳着手
- 3月 プロトタイプ完成

経緯(2)

■ 平成15年度

- 4月 『SPARC学術機関リポジトリチェックリストおよびリソースガイド』 翻訳完成, 公開
- 5月 国立情報学研究所との間でOAI-PMHによるメタデータ・ハーベスティングの実験
- 7月 「学術情報発信に関する懇談会」
- 8月 第1回「学術情報発信のための協力者会議」
- 12月 第2回「学術情報発信のための協力者会議」
- 3月 第3回「学術情報発信のための協力者会議」
プロトタイプの改造に着手

経緯(3)

■ 平成16年度

- 7月 東京新聞に記事掲載(15日)
- 7月 附属図書館運営委員会の下に「学術情報発信専門委員会」設置予定
- 後半 正式運用開始,リポジトリの公開

プロトタイプの概要

■ ハードウェア

- DELL PowerEdge 600SC (メモリ1G , HD80G)

■ ミドルウェア

- Oracle

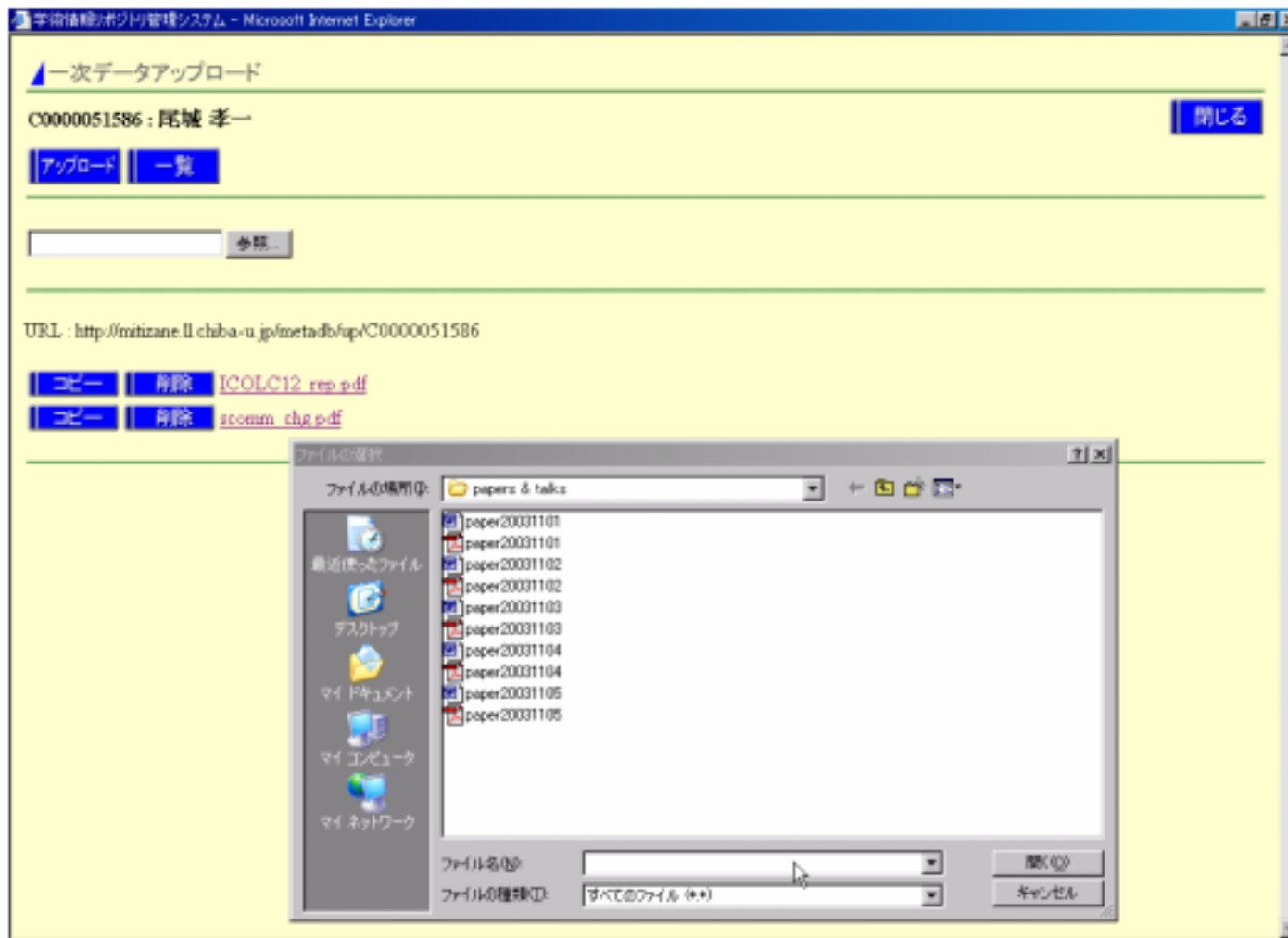
■ リポジトリ・アプリケーション

- 独自開発(外注 CMS)

■ 実装機能

- 利用者管理
- コンテンツ登録(アップロード)
- メタデータ更新
- 検索・利用
- OAI-PMHリポジトリ機能

コンテンツ・アップロード



メタデータ入力

学術情報ポータル管理システム - Microsoft Internet Explorer

ファイル(F) 編集(E) 表示(V) お気に入り(I) ツール(T) ヘルプ(H)

メタデータ登録(修正)

C0000051586 : 尾城 孝一

検索画面 ログアウト

保存 一次データ管理

<00020212>

Title 国際図書館コンソーシアム連合 (ICOLC: International Coalition of Library Consortia) 第12回年会報告

Creator 尾城孝一

Subject

Description

Publisher

Contributor

ページが表示されました

インターネット

検索画面

千葉大学学術情報リポジトリ

千葉大学で生産された各種研究成果(論文, 教材, レポート類)が検索できます。現在, 試行的に公開しております。収録データ数が少ない点はお容赦ください。

更新日 ~ 件表示

ご意見・ご質問等ございましたら下記までお寄せください。
千葉大学附属図書館 情報管理課 雑誌・電子情報係
info@lib.chiba-u.ac.jp

ページが表示されました

メタデータ一覧表示

千葉大学学術情報リポジトリ - Microsoft Internet Explorer

千葉大学で生産された各種研究成果(論文, 教材, レポート類)が検索できます。現在、試行的に公開しております。収録データ数が少ない点はご容赦ください。

検索 クリア ヘルプ

高木 全て AND
全て AND
全て

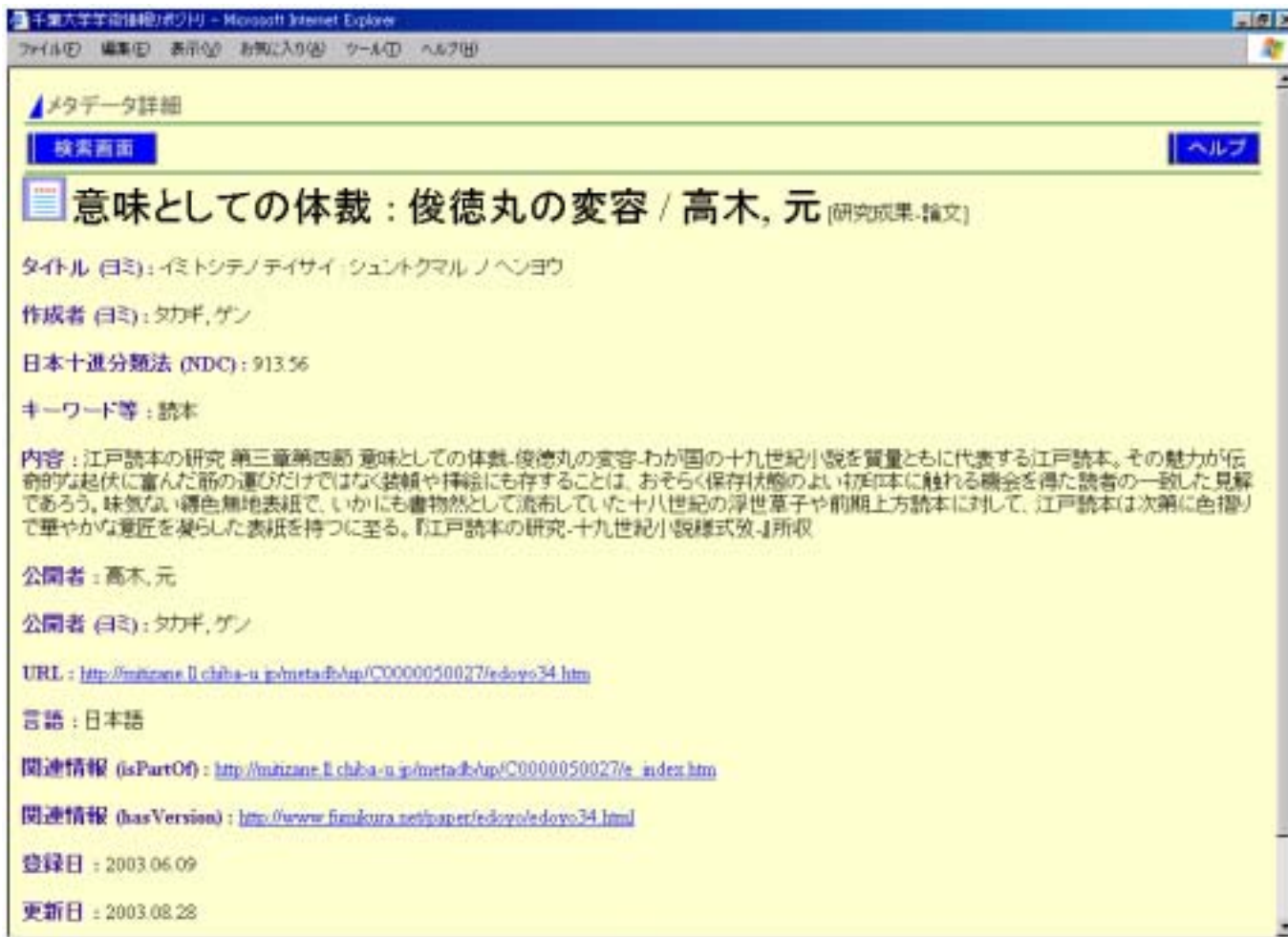
更新日 ~ 10 件表示

検索結果 34件

- 意味としての体裁：俊徳丸の変容 / 高木, 元
江戸読本の研究 第三章第四節 意味としての体裁-俊徳丸… [詳細]
<http://hdl.handle.net/10119/0000000002700000034.htm>
- 江戸読本享受史の一断面：明治大正期の翻刻本について / 高木, 元
江戸読本の研究 第四章第二節 江戸読本享受史の一断面一 [詳細]
<http://hdl.handle.net/10119/0000000002700000042.htm>
- 江戸読本研究序説：序章 / 高木, 元
読本よみほんは、近世小説ジャンルの中でもっとも歴史が… [詳細]
<http://hdl.handle.net/10119/0000000002700000000.htm>
- 江戸読本の形成：板元 関屋喜右衛門の演出 / 高木, 元
江戸読本の研究 第一章第二節 江戸読本の形成-板元 喜右衛門一 [詳細]
<http://hdl.handle.net/10119/0000000002700000012.htm>
- 江戸読本の研究：あとがき / 高木, 元
江戸読本の研究 あとがき そもそも江戸読本との出会い 1-1 [詳細]

ページ表示を止めました インターネット

メタデータ詳細表示



千葉大学学術情報ポータル - Microsoft Internet Explorer

ファイル(F) 編集(E) 表示(V) お気に入り(I) ツール(T) ヘルプ(H)

メタデータ詳細

検索画面 ヘルプ

意味としての体裁：俊徳丸の変容 / 高木, 元 (研究成果-論文)

タイトル (白ミ): イミトシテノテイサイ・シュントクマルノヘンヨウ

作成者 (白ミ): タカギ, ゲン

日本十進分類法 (NDC): 913.56

キーワード等: 読本

内容: 江戸読本の研究 第三章第四節 意味としての体裁-俊徳丸の変容-わが国の十九世紀小説を質量ともに代表する江戸読本。その魅力が伝奇的な起伏に富んだ筋の運びだけでなく装幀や挿絵にも存することは、おそらく保存状態のよい印刷本に触れる機会を得た読者の一致した見解であろう。味気ない緑色無地表紙で、いかにも書物然として流布していた十八世紀の浮世草子や前期上方読本に対して、江戸読本は次第に色摺りで華やかな意匠を凝らした表紙を持つに至る。『江戸読本の研究-十九世紀小説様式攷』所収

公開者: 高木, 元

公開者 (白ミ): タカギ, ゲン

URL: <http://mitzane.l.chiba-u.jp/meta/#/p/C0000050027/edovo34.htm>

言語: 日本語

関連情報 (isPartOf): http://mitzane.l.chiba-u.jp/meta/#/p/C0000050027/e_index.htm

関連情報 (hasVersion): <http://www.fizukura.net/oper/edovo/edovo34.html>

登録日: 2003.06.09

更新日: 2003.08.28

コンテンツ表示

『江戸説本の研究』

第三章第四節 意味としての伴書 - 後徳丸の姿容 -

高木元

一 江戸説本の伴書

わが国の十九世紀刊物を数々と代表する江戸説本。その魅力が内容的に富んだ話の運びだけではなく装幀や挿絵にも存することは、おそらく保存状態のよい中野本に触れる機会を得た読者の一読した見聞であろう。特徴的な緑色無地表紙で、その4にも書物感として存在していた十八世紀の浮世草子や前掲上方説本に対して、江戸説本は次第に華やかな装幀を基とした装束を持つに至る。益々そびえ立つた文字の大きさも一つの目安となっていたと思われるが、見出しにはさまりもなく内容に即した振り仮名などを用い、挿絵には主な登場人物を添えてその姿容を指示する質が入れられている。多くは漢文序を備え、目録は草紙体小字に假した巻物の様式を採り、さらに本文中には時に断片的な語句の挿絵が入れられていた。

このような江戸説本の気取った華やかさは、読者に対する本書体の自己主張として意識的に採られた結果である。ひとたび手にとってみると、奮然と筆を練った華麗な口説は慣習を脱し、目録は大きな筋を示し、さらに挿絵に一言を加えると、もう読み手が追いつけなくなるという具合に本が配られているのである。まわって華美にしてしまえば、挿絵の草花が絵巻図から挿絵刷り装束に移行していったように、商品としての魅力を持たせるための潤滑と見做せるかもしれない。

しかし、作品内容と体裁とが不可分の関わりを持ちつつ各ジャンルを形成していった近世文芸において、比較的堅固な堅い雰囲気を保持しようとした江戸説本が、なぜあんなに装束を身につけたのであろうか。おそらく「装束」という名称とは裏腹に、単に装束だけをのりから、次期に口説や挿絵という装束的な要素の社装が増し、現代の読者たちと同様に、モノとしての本書体の美しさをも愛玩するようになったからであろう。本というモノは本質的に二度で読むものであり、単に文字が記述されていけばよいという実用品ではないのである。

二 後徳編若返書漢書

挿絵装束の美しい江戸説本が、振りかたのきわめてうぶな状態で保存されている作品の一つとして、広島市立図書館蔵野文庫に所蔵されている後徳亭主人作・謙齋北馬画の『後徳編若返書漢書(しんたくくまよりきょくくまらふ)』(天明六年、若返書漢書)を挙げることができる。現存本としては『国書経籍誌』に僅か二本を記述に過ぎないし、『古典籍総合目録』にも登録されていないが、現在までに発見に入ったものは編本を含めて十三本あり、これらは江戸説本の稀存本数からいけば平均的な数字だと思われる。

この本は江戸説本の伴書に凝った大層な装幀が施されている。半紙本五葉五冊、華やかに梅花水裂を敷き、中央上部に長方形無地の文字題額「後徳丸へ巻の一へ巻の井へまゝ子らん、門五葉」と、巻一の第一回から第三回までの発行しき題名額に配置している。見出しには挿絵の振り仮名の内装を重て渡し「後徳漢書後徳丸」と書く装束を添えている。自序「後徳丸装束」には所行と装束とを併せて、挿絵の意匠を用いた目録を掲げている。これらは挿絵『関法師』を強く意識したものと思われるが、それにも刺激された装束の方向性がある。

さて、挿絵『関法師』や挿絵『しんとく丸』(天明五年)に結集した後徳丸の世界は、次期に江戸の世界と強い交錯にされて内容を遊がていった。浄瑠璃では挿絵『富士次郎』の筋を加えた『新撰八景巻物(しんせんはつげんまきもの)』(天明八年刊)や、『愛蔵書(あいていしょ)』(天明八年刊)物の筋を取り入れた『新撰八景巻物(しんせんはつげんまきもの)』(天明八年刊)などがある。小冊子では富士次郎と後徳丸を結びつけた先行作として享保十五年刊の八文字草子『富士次郎巻物行状』がある。挿絵明もこれらの入口に集束した作品に題材を求めたのであるが、本作がこの八文字草子によって、すでに挿絵『関法師』が指している。また、新たに書き加えられた趣向も多く、作品本文には「後徳丸の由來」としての挿絵が添えられている。口説の挿絵に

按本傳後徳丸は名匠謙齋北馬画師の筆也。一書曰後徳丸作新撰百済王之後徳丸山嶺長者皆謂之也。時人稱其長者有後徳丸。今由書諸存于河津津安野山嶺村中。土人呼之後徳丸千載口調初出矣。嗚呼後徳丸之美名永為後徳丸代者乎。予此紀事補遺。只指後徳丸之挿絵以爲其證。其書者作也。其書者作也。其書者作也。

と記してあるが、『町内志』の記述や、『町内名所図會』に見える。

後徳丸の古跡、山嶺村の村にあり。土人、後徳と稱ふ。一説に、後徳あるはは新撰に作る。この人、姓氏不明ならず。あるが曰く、百済王の御して、山嶺長者と号し、是書中の人なり。挿絵『関法師』に見えたり。大坂天王寺南門外に再徳貫道あり

ページが表示されました

インターネット

検討すべき課題

- 学内合意形成
- 運営方針の策定
- プロトタイプの改良
- 登録(投稿)の促進

学内合意形成

■ なぜ機関リポジトリが必要なのか？

- 存在意義について理解を求める
- 期待される効果

■ なぜ図書館が運営するのか？

- 従来 of 図書館機能の延長 (学術情報の収集, 組織化 (メタデータ, 主題分析), 利用提供, 保存)
- 著作権及び学術コミュニケーションをめぐる諸問題に関する専門家
- 技術的なノウハウの蓄積

運用方針の策定

■ コンテンツ・ガイドライン

- 登録可能な投稿者(誰が登録できるのか?)
- 登録可能なコンテンツの種別(論文,教材,ソフトウェア,データセット等々)
- 登録可能なコンテンツの形態
- 品質管理(査読に相当する品質管理のプロセスが必要か?)
- 登録したコンテンツの削除(取り下げ)

■ 利用許諾契約書

- コンテンツをリポジトリに蓄積し公開するための非排他的権利の譲渡を求める

プロトタイプの改良

- 登録インターフェイスの改良
 - ウェブインターフェイスの簡略化
 - 一括登録
- 利用(検索)インターフェイスの改良
 - ブラウジング機能
 - リンク検索機能

登録(投稿)の促進

■ リポジトリの数

□ Institutional Archives Registry

- 209のアーカイブ(リポジトリ)

■ 既存リポジトリのコンテンツ数

□ PALS Pathfinder Research on Web-Based Repositories: Final Report

- 45のリポジトリの収録コンテンツ数のメジアン(中央値)=290

段階的な実施

■ 第1フェーズ

- 初期データの構築(デモンストレーション)

■ 第2フェーズ

- 研究者の自己登録(セルフ・アーカイビング)を促す

初期データの構築(有用性の実証)

- 学内外のサーバ上で既に公開されているコンテンツの登録
 - 学内:個人,学部・学科
 - 学外:eプリントアーカイブ(arXiv, ADS)
- NIIの紀要ポータル事業によって電子化されたコンテンツ
- 既に電子化されているが,サーバ上では未公開のコンテンツ(CD-ROM化された学位論文等)
- リポジトリへの登録を許可する雑誌に掲載された,学内研究者による論文

考えられる障壁

■ インセンティブの欠如

- 自分のウェブサイトで既に公開している
- どんなメリットがあるの？
- 登録しなくても何のペナルティもない

■ 登録行為に対する抵抗感

- 登録に手間がかかる
- 時間がない

■ 著作権に関する懸念

- (特に学術誌掲載論文の場合) 登録する権利があるの？

除去するための方策

■ インセンティブの欠如

- メリットの強調(アメ)
- 強制力(ムチ)

■ 登録行為に対する抵抗感

- 使いやすい簡易な登録インターフェースの提供
- 図書館員による登録支援

■ 著作権に関する懸念

- 出版社のポリシーの報知

メリットの強調(アメ)

- 無料でアクセスできるオンライン論文の被引用率
 - オフライン論文に比べて2.6倍多く引用されている
(Lawrence, Steve. “Online or invisible?”
Nature. Vol.411, No.6837, p.521, 2001.)
自らの研究成果の可視性の向上
- 研究成果の長期保存・利用の保証
- 成果一覧リストの出力

強制力(ムチ)

- 雇用者(大学当局)または助成金提供者が、出版された論文のコピーをリポジトリにデポジットすることを求めた場合、どうしますか？

回答	OA著者	非OA著者
進んでデポジットする	83%	69%
やむを得ずデポジットする	4%	8%
デポジットしない	3%	3%
わからない	8%	18%

OA著者: OA誌上に論文を発表したことのある著者

非OA著者: OA誌上に論文を発表したことのない著者

Swan, A. & Brown, S.N. JISC/OSI Journal Authors Survey Report. (2004)による
http://www.jisc.ac.uk/uploaded_documents/JISCOAreport1.pdf

QUTのポリシー

- クイーンズランド工科大学のEプリント・リポジトリへの登録に関するポリシー
 - http://www.qut.edu.au/admin/mopp/F/F_01_03.html
 - 「大学の構成員が公にした研究成果は、原則として全て図書館が運営するEプリント・リポジトリに登録しなければならない．．．研究成果には、論文(プレプリント, ポストプリント), 学位論文, 会議発表論文, 会議録の章などが含まれる．．．」(理事会承認)

図書館員による代理登録

- Let us Archive it for you! (セント・アンドリュース大学)
 - http://eprints.st-andrews.ac.uk/proxy_archive.html
 - コンテンツをメール添付し, 必要最低限のメタデータを記述して担当者に送信
 - 図書館員が代理登録
 - さらに, 依頼があれば他のリポジトリやアーカイブ (例えば, arXiv.org) への登録も代行

出版社のポリシーに関する情報提供

- RoMEO/SHERPAリスト(出版社の著作権ポリシーとセルフアーカイビング)
 - <http://www.sherpa.ac.uk/romeo.php>
 - 出版社単位
- romeo.eprints.org
 - <http://romeo.eprints.org/>
 - タイトル単位での検索(構築中)

セルフ・アーカイビングに関する雑誌と出版社のポリシー

	雑誌数	%	出版社数	%
	10,673	(100%)	88	(100%)
公式には認めない	1,793	17%	37	42%
プレプリントのみ認める	3,253	+30%(=83%)	7	+8%(=58%)
ポストプリントのみ認める	1,772	+17%(=53%)	14	+16%(=50%)
ポストプリントとプレプリントの両方を認める	3,855	36%	30	34%

[Journal and Publisher policies on author self-archiving](#)による

出版社に対して許諾を求める手紙の雛形

- “I hereby transfer to [publisher or journal] all rights to sell or lease the text (on paper and online) of my paper [paper title]. I retain only the right to distribute it free for scholarly/scientific purposes, in particular the right to self-archive it publicly online on the Web.” (セント・アンドリュース大学のEprintsリポジトリの著作権に関するページ [http://eprints.st-andrews.ac.uk/information_copyright.html])
- 「わたしは、自著論文[]のテキストを冊子版及び電子版で販売・リースするための全ての権利を[]社 (または []誌) に譲渡する。しかし、学術研究目的のために当論文を無料で配布するための権利、とりわけ当論文をウェブ上で公開するための権利については、これを保持する。」

今後の展望

■ リポジトリ共同体

- 課題解決に向けた知識, 経験, 技術の共有

■ 大学図書館とNIIのコラボレーション

□ 大学図書館

- リポジトリの構築と運用
- 学内の学術情報を収集, 保存 (データ・プロバイダ)

□ 国立情報学研究所

- 各大学のリポジトリ構築支援
- 各大学のリポジトリに対する総合的窓口機能 (サービス・プロバイダ)

めざすべきは

